

『一心一体』

インターネットは、
心と心の隙間を補うツール。

息を吸う人。
息を吐く人。

呼吸の中にネットあり。

PJ PED BITS

「糸巻き」 フレデリック・レイトン



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。株式会社パイプドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者に情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイプドビッツ
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

『溢れ出る情報に溺れながら』

11月22日の22時を過ぎたころ、友人と談笑しながら過ごしていた都内のマンションがグラグラと揺れ始めた。揺れがなかなか収まらないので、遠くで大きな地震が起こったかもしないと思い、テレビをつけてみた。長野県北部でマグニチュード6・7の地震が発生し、長野市などで最大震度6弱と報じられていた。

今回は久しぶりの大きな地震とあって、連日被害状況が報道されている。特に白馬村では27軒の住宅が全壊した。住宅や倉庫などの一部損壊を含めると224軒に上る。被害に見舞われた方々は、寒い中で不便な生活を強いられ大変な思いをされていると思うが、死者が出なかつたことは素直によかつたと思う。

白馬と言えば、冬場は多くのスキー客で賑わう観光名所だ。白馬村や小谷村によると、スキー場の被害は軽微でスキーへの影響は無いそうだ。村長は、地震を機にスキー客の足が遠のいてしまうと、それが二次災害のように住民の暮らしをさらに苦しくさせるので、こんな冬こそ遊びに来て欲しいと訴えている。余震による雪崩が気になるが、白馬の雄大な景色に心を洗われに行くのもよいと思う。

今回の地震、発生当初は「長野県北部地震」と呼ばれていたが、発生の2日後から「長野県神城断層地震」と呼ばれるようになつた。3年前、東日本大震災の翌日に発生した「長野県北

部地震」と混同するのを避けるためだ。このときの地震も大きかった。長野県北部と新潟県中越地方の境界で今回と同じマグニチュード6・7、長野県栄村では震度6強を記録し、3名の死者が出ている。

3年前の長野県北部地震の方が揺れや被害が大きかったにもかかわらず、今回の地震よりも印象が薄いと感じるのは私だけではないと思う。あまりに被害が大きかった東日本大震災に報道の多くが割かれたからだろう。情報が人間の認識に影響を与える一例だ。

溢れ出る情報に溺れながら日々を過ごしている我々が、事実を正確に認識するのは難しい。情報の波に呑み込まれないために、時には過去の記録を繙き事実を整理検証してみることが重要だ。このコラムが公開される頃には、第47回衆議院議員選挙が開票され、新政権が立ち上がりっていると思う。今回の選挙が世の中の整理検証のよい機会になればと思う。